お祖師さまをお訪ねする物語 第18回

高祖日蓮大士ご降誕
800年慶讃

安房国（千葉県）の小湊の海辺で幼少時代を過ごした善日麿【日蓮聖人（お祖師さま）の幼少時の名前】は、十二歳の五月に故郷にほど近い【清澄寺】に入寺（お坊さんになるためにお寺に入る）するんだ。今回は「清澄寺に入寺」と「出家得度」（僧侶・お坊さんになる）のお話をするね。

清澄寺の巻

貞永二年（一二三三）の五月十二日、十二歳になった善日麿は、お父さんに連れられて、自宅から北に八キロ程行ったところにある【清澄寺】という山寺（山の中にある寺）に入寺することになったんだ。

この【清澄寺】は、宝亀二年（七七一）に不思議法師という行者（仏教を修行する人）が、お堂（神や仏をまつる建物）を建て【虚空蔵菩薩】（知恵を授ける菩薩）をお祀りしたのが始まりと伝えられているんだよ。

最初は、真言宗のお寺として建てられ、とても繁栄（さかえて発展する）したんだけど次第にさびれていき、荒れ果てたひどいお寺となってしまったんだ。

承和三年（八三六）のこと。比叡山延暦寺（滋賀県）の僧侶・慈覚大師（天台宗）がこの【清澄寺】を訪れ、しばらくここで修行をしたんだね。それ以来、このお寺は天台宗のお寺となりまた栄えていったんだよ。

清澄寺
清澄寺ははじめ真言宗のお寺であったが、お祖師さまの開宗700年を記念して昭和24年に日蓮宗に改宗された

蓮長が「日本第一の智者になさしめ給え！」と必死に祈ると、【虚空蔵菩薩】は智恵の大宝珠をお渡しくだされた

善日麿が【清澄寺】に入寺した時の住職は道善房という人で、早速、「薬王麿」という新しい名前がつけられ、薬王麿は希望に胸を膨らませて、【清澄寺】での修行が始まったんだね。

出家得度

嘉禎三年（一二三七）、四年の歳月がたち薬王麿は十六歳になったんだ。その年の十月八日、薬王麿は【清澄寺】で道善房をお師匠さま（学問・武芸・芸術などを教える人。先生）とし、念願（心に願い望む）の出家得度をし、是聖房蓮長と名乗ることになったんだよ。

清澄寺の虚空蔵菩薩像
本堂内には、現在本尊とする御題目の前に享保2年（1717）に天瑞和尚が奉納した虚空蔵菩薩の像が置かれ、その胎内にお祖師さまがご祈願した不思議法師作の虚空蔵菩薩像が安置されているという

僧侶となった蓮長は、日本には沢山の仏様の教えが弘まっているけど、どれが一番正しい教えなのか知りたいと思ったんだね。

そこで蓮長は、清澄寺の【虚空蔵菩薩】に「日本第一の智者（賢い人）になさしめ給え！」と、お堂に閉じこもり二十一日間、不眠不休（眠りも休みもしない）でお祈りしたんだよ。

満願（期間を決めた最後の日）の二十一日目の朝、【虚空蔵菩薩】が蓮長の目の前に現れたんだ。そして、明星（明るく輝く金星）のような智恵の大宝珠（智恵のつまった玉）を授けてくださったんだ。

それ以来、蓮長は、今まで以上に記憶力や理解力が高まり、仏様のとても難しいみ教えもどんどんと勉強し、その学んだ内容も決して忘れることがなかったと言うんだから、本当に凄いね。

【虚空蔵菩薩】に「日本第一の智者になさしめ給え！」と祈り、多くの人々を仏様の正しいみ教えでお救いしようと励まれる若き蓮長の姿には、とても感動するね。

凡血の笹
清澄寺の境内に黒い斑点がある不思議な笹の葉が生えている。蓮長が虚空蔵菩薩に願をかけた満願の日、堂を出た蓮長の吐いた血が笹の葉に飛び散り、葉に黒い斑点が表れるようになったと伝わる。蓮長が必要なくなった凡人の血を吐いたと考えられ「凡血の笹」と呼ばれる